

哲学B (心身問題を考える)

平井 靖史

期別: 後期 単位数: 2 開講年次 1

- - - 授業の到達目標等 - - -

- - - 授業計画 - - -

・哲学とはどのような営みであるかについて具体的な理解を得る。哲学のアプローチと心理学・生理学などの諸科学のそれとの違いを把握できるようになる。
 ・多様で錯綜した諸問題を概観し、様々な解法を批判的に検討することにより、心身をめぐる哲学的問題について、主体的に考えることができるようになる。

- 1 導入 (1)
- 2 導入 (2)
- 3 導入 (3)
- 4 魂 (1)
- 5 魂 (2)
- 6 魂 (3)
- 7 心身結合 (1)
- 8 心身結合 (2)
- 9 心身結合 (3)
- 10 心身結合 (4)
- 11 身体 (1)
- 12 身体 (2)
- 13 身体 (3)
- 14 展望 (1)
- 15 展望 (2)

- - - 授業の概要 - - -

古代から現代までの心身問題をめぐる思想史を概観しつつ、精神および身体
 の役割と意味を検討し、運動、知覚、感情、記憶、注意との関連から、その哲
 学的諸問題を究明する。

哲学史の整理に平行するかたちで、概念の整理を行う。また、哲学者のテク
 ストを扱うので、おのずと(ある程度)難解になることが予想されるので、特
 に概念能力に自信のない学生諸君には念入りな予習と復習が望まれる。

扱われる問題は、例えば以下のようなもの。

- ・魂とは何か
- ・心身結合
- ・感覚と運動
- ・鏡映としての知覚
- ・意志と自由

扱われる哲学者としては、イオニアの哲学者たちからはじまって、プラトン、
 アリストテレス、アウグスティヌス、デカルト、スピノザ、ライプニッツ、ロッ
 ク、パークリ、ヒューム、カント、サルトル、ベルクソン、ネーゲルなど。

- - - 事前・事後学習(予習・復習) - - -

事前の学習は不要ですが、慣れない哲学的な思索を身につけるためには、念入
 りな復習が必須です。必ず、授業後できるだけ早いうち(遅くとも翌日まで)
 に、ノートと記憶をたよりに授業での議論(導入 問題の立ち上げ 展開)を
 自分でリプレイ(追体験)してください。そうすることで、定着度がかなり増
 すばかりでなく、自分で主体的に考える訓練になります。

- - - 成績評価基準および方法 - - -

期末の筆記テストによる。
 時間の節約のため授業内で出席は取りませんが、試験問題は授業内で扱った議
 論からまんべんなく出題されるため、出席率の低さは成績に一定の仕方
 で反映されることになると思います。したがって、ぜひ出席してください。
 期末テストは、授業で紹介した議論の理解度、知識の定着度、哲学的議論への
 習熟度を判定基準とする。

- - - テキスト - - -

特になし。

- - - 参考書 - - -

デカルト、『省察』(ちくま学芸文庫) ISBN 978-4480089656
 スピノザ、『エティカ』(中公クラシックス) ISBN 978-4121600943
 ベルクソン、『意識に直接与えられたものについての試論』(ちくま学芸文庫)
 ISBN 978-4480087058

- - - 履修上の留意点 - - -

心理学でも心は大きな主題のひとつであるが、この授業では心理学の知見も
 当然織り交ぜつつも、基本的には、哲学の立場から心(精神)を扱うので、く
 れぐれも誤解のなきよう注意されたい。

事前の学習は不要ですが、慣れない哲学的な思索を身につけるためには、念
 入りな復習が必須です。必ず、授業後できるだけ早いうち(遅くとも翌日まで)
 に、ノートと記憶をたよりに授業での議論(導入 問題の立ち上げ 展開)を
 自分でリプレイ(追体験)してください。そうすることで、定着度がかなり増
 すばかりでなく、自分で主体的に考える訓練になります。